

2015年度

学校関係者評価報告

2016年11月

学校法人トラベルジャーナル学園
ホスピタリティ ツーリズム専門学校大阪
学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員

氏名	所属団体・企業等	職位
廣岡 裕一	国立大学法人和歌山大学	観光学部教授
田中 知一	大阪府立松原高等学校	進路保障部
植田 文一	株式会社ロイヤルホテル	人事チーム長
福田 泰司	株式会社日本旅行	西日本営業本部 企画部部長
川邊 浩二	株式会社日本旅行	西日本営業本部 企画部マネージャー
丸岡 正信	KGJグループ株式会社キッザニア甲子園事業部	管理部 人事・総務グループマネージャー
佐野 恭子	KGJグループ株式会社キッザニア甲子園事業部	管理部 人事・総務Gアシスタントマネージャー
富永 七瀬	阪急電鉄株式会社	都市交通事業本部 運輸部副部長
瀬戸 立	日本航空株式会社	西日本地区副支配人 西日本地区総務部長
広末 貢一郎	株式会社日本トラフィックサービス	総務部 課長
徳岡 沙知	株式会社 Pacific Diner Service	HR 事業部 マネージャー
高田 直美	バリューマネジメント株式会社	社長室ゼネラルマネージャー
古瀬 江梨奈	株式会社ユー・エス・ジェイ	人事・総務本部人事部（卒業生委員）
高田 直樹	ホスピタリティ ツーリズム専門学校大阪	常務理事 学校長
佐野 美保	大阪ブライダル専門学校	副校長 教務部長
増本 靖		事務局長
田畑 ゆかり		教務部 教務課長 キャリアサポートセンター長
鎌田 真紀		教務部 教務課長
柏木 昌		教務部 教務課長（ブライダル）
北市 尚久		教務部 教育企画センター長
篠原 健太		事務局 広報課長
福永 尚志		広報課 ※議事録担当

1. 教育理念・目標

	評 価 項 目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
①	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4
②	学校における職業教育の特色があるか	4
③	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
④	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3
⑤	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

2. 学校運営

	評 価 項 目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
①	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
②	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
③	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
④	人事・給与に関する規定等は整備されているか	4
⑤	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
⑥	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
⑦	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
⑧	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

3. 教育活動

	評 価 項 目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
①	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
②	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
③	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
④	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
⑤	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
⑥	関連分野における実践的な職業教育（産学接続によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
⑦	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
⑧	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
⑨	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
⑩	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
⑪	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
⑫	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
⑬	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	3
⑭	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

4. 学修成果

	評 価 項 目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
①	就職率の向上が図られているか	4
②	資格取得率の向上が図られているか	4
③	退学率の低減が図られているか	4
④	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
⑤	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

5. 学生支援

	評 価 項 目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
①	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
②	学生相談に関する体制は整備されているか	4
③	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3
④	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
⑤	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
⑥	学生の生活環境への支援は行われているか	3
⑦	保護者と適切に連携しているか	3
⑧	卒業生への支援体制はあるか	3
⑨	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
⑩	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア・職業教育の取組が行われているか	3

6. 教育環境

	評 価 項 目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
①	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	3
②	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
③	防災に対する体制は整備されているか	3

7. 学生の受入れ募集

	評 価 項 目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
①	学生募集活動は、適正に行われているか	4
②	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
③	学納金は妥当なものとなっているか	4

8. 財務

	評 価 項 目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
①	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
②	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
③	財務について会計監査が適正に行われているか	4
④	財務情報公開の体制整備はできているか	4

9. 法令等の遵守

	評 価 項 目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
①	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
②	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
③	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
④	自己評価結果を公開しているか	4

10. 社会貢献・地域貢献

	評 価 項 目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
①	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
②	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
③	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	3

11. 国際交流

	評 価 項 目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
①	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	3
②	留学生の受入れ・派遣、在籍管理などにおいて適切な手続き等がとられているか	4
③	留学生の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4
④	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4

2016年度第1回教育課程編成委員会・学校関係者評価委員会議事録

■開催日時：2016年11月9日（火） 16：30～18：30

■開催場所：学校法人トラベルジャーナル学園 3号館5階353A教室

■委員会出席者 ※順不同・敬称略

氏名	所属団体・企業等	職位
廣岡 裕一	国立大学法人和歌山大学	観光学部教授
田中 知一	大阪府立松原高等学校	進路保障部
植田 文一	株式会社ロイヤルホテル	人事チーム長
川邊 浩二	株式会社日本旅行	西日本営業本部 企画部マネージャー
佐野 恭子	KCJグループ株式会社 キッザニア甲子園事業部	管理部 人事・総務グループ アシスタントマネージャー
富永 七瀬	阪急電鉄株式会社	都市交通事業本部 運輸部副部長
瀬戸 立	日本航空株式会社	西日本地区副支配人 西日本地区総務部長
広末 貢一郎	株式会社日本トラフィックサービス	総務部 課長
高田 直美	バリューマネジメント株式会社	社長室ゼネラルマネージャー
高田 直樹	ホスピタリティ ツーリズム専門学校大阪	常務理事 学校長
佐野 美保	大阪ブライダル専門学校	副校長 教務部長
増本 靖		事務局長
田畑 ゆかり		教務部 教務課長 キャリアサポートセンター長
鎌田 真紀		教務部 教務課長 (ホテル、英語、総合)
柏木 昌		教務部 教務課長 (ブライダル)
北市 尚久		教務部 教育企画センター長
福永 尚志		広報課 ※議事録担当

■進行：増本靖 書記：福永尚志

■学校長より

高田 直樹

10月1日に願書受付を開始し1カ月が経過したが、本年の特徴としては、前年に比べると夜間部希望者が減っていることがあげられる。自立進学が可能であるとうたっている夜間部を設定している学校は多く無い中、この結果となっているのは、「高卒での就職が好調だから？」と推測する。これに関しては後程、皆さまのご意見を伺いたい。また、ブライダル学科を志望する学生の出願状況に関しては、競合他校が増え、高校生の進路選択の

幅が広がったことが影響しているものと考えている。本委員会を通じて、業界の皆さまからの貴重なご意見を頂戴し、カリキュラムの改善等に活かしていきたいと考えている。

この後の自己評価報告をはじめとし、学生募集・新学校についても皆さまから忌憚の無いご意見を頂戴出来ればと思う。

■学校関係者評価委員会「自己評価報告」

増本 靖

I 学校の教育目標

⇒ 前年度より教育理念および教育方針を変更。東京校も同じものとし、学園で統一した。また、それぞれを各教室に掲示し、学生便覧にも掲載している。

II 自己評価総括

⇒ 評価メンバーに変更なし

III 評価項目の達成状況・取組状況

1. 教育理念・目標

⇒ 項目①・②は先述の通り、教室掲示および学生便覧に掲載。③は新学校の計画や1号館の改修工事を実施。④に関して、学生への周知はできていると考えるが、保護者に対しては年4回のレター送付のみである為、他に何かできないかと考える余地がある。⑤は教育課程編成委員会や授業に企業の人事担当者を招いた講演などを実施。

2. 学校運営

⇒ 概ね年度重点計画に基づく事業計画や就業規則にて策定・整備されているものの、⑥に関して、研修は毎年実施しているが満足はしていない為、3と評価した。

3. 教育活動

⇒ ①から④および⑦から⑨に関しては、毎年2月に実施している教育課程編成委員会の分科会の結果として評価。同時に、年2回の編成委員会のボリュームをもう少し増やすことができればという思いから⑤の評価を3とした。⑩から⑭に関してでは、教職員の自己研鑽や改善・改良は常に必要であるとする為、3と評価しているが、教務部の正職員28名が昨年度取得した資格総数は34個であった。

<各委員より>

佐野副校長：⑩⑫に関し、専門的な科目に関する教員の確保に苦勞しているのが現状。特に昼間部の授業で、各企業から講師派遣のご協力を頂ければと常々思っている。休みの日に卒業生が無償で現場の話を伝えに来てくれることもあるが、定期的ではない。

高田校長：専任の講師たちは現場を離れて時間が経っている為、1週間や1カ月という短期間でも改めて職業現場で研修してみたいという声を良く耳にする。

各企業としては受け入れは難しいか？

富永委員：何かがあってからでは遅い為、ハードルは高いように感じる。

佐野委員：以前、「大人の武者修行」として2週間の研修で他企業を受け入れた実績はある為、内容によっては協力できるのではと考える。

川邊委員：学校が許すなら、添乗員登録をしていただければ添乗業務に限ってではあるが、可能だと思う。

佐野副校長：教員たちによる相互の授業参観が年間260件近く実施されており、教授方法のブラッシュアップは図っている。それに加えて、現場での研修が実現することを願う。

4. 学修成果

⇒ 2校での退学率が約4%低下(10.1%→6.2%)となった為、③を3から4へと評価を変えた。④⑤に関しては、全てを把握できているとは言い難い為、3と評価。しかしながら、2017年2月に実施予定の35周年OB総会をきっかけにOBとの繋がりを再構築、またより深いものにしていきたい。

5. 学生支援

⇒ ③から⑩は「支援」の目標に上限が無かったり、「これでいい」が無いと考えられる為に、3と評価した。また、⑤は有用なFWを頻繁に実施されている為、前年の評価よりも適切であると評価した。

<各委員より>

鎌田課長：⑩の高校等との連携に関し、最近では業界事情を知る目的からブライダル部門について講義する機会が増えた。

北市課長：他にもコミュニケーションやホスピタリティ、ビジネスマナーに関する授業依頼がある。依頼内容に基づいて講師を派遣している。他にも、企業から新人マナー研修や英語授業のリクエストもある。

6. 教育環境

⇒ ①に関しては、1号館の老朽化に伴い改修工事を計画・開始しているが、「これがベスト」とせず。

7. 学生の受入れ募集

⇒ 全項目問題無いと考えるため、評価に関しては前年と変わらず。

8. 財務

⇒ こちらも無借金運営を継続しており、評価は変わらず。

9. 法令等の遵守

⇒ 関係法令の遵守および適正な学校運営が図られていると考える為、評価は

変わらず。

10. 社会貢献・地域貢献

⇒ 絵画教室、ワインセミナー、映画大会、キッズパークなど教室貸しや近隣の子どもを対象としたイベントを実施しているものの、まだまだ改善・改良の余地はあると考え、3と評価。特に本校の在校生と地域との関わりをより増やしていきたいという思いがある。

11. 国際交流

⇒ 非漢字圏の留学生が増えてきており、試行錯誤しながら学生対応をしている現状ではあるが、日本語学校教職員による留学生に勧めたい進学先として、「日本留学AWARDS」に選出されている為、全項目4と評価。

<各委員より>

瀬戸委員：例年の卒業式でも、多くの留学生が表彰されている為、4でも問題無いと考える。

■教育課程編成委員会

1. 次年度以降の学科編成について

佐野 美保

2. 1号館リニューアル工事の概要

増本 靖

<各委員より>

高田校長：学科編成の背景や構成は以上の通り。各委員より意見を伺いたい。

また、今年度の高卒求人についても各社の状況を教えて欲しい。

植田委員：総合観光科が印象に残った。ロイヤルホテルでも韓国のジョブフェアに参加し、日本で働きたい外国人を積極採用している。ニーズはあるはずだから、もっと入学希望者が多くなればと思う。高卒求人に関しては、例年より多い採用であったが、高校生の反応は芳しく無いと感じた。保護者も含め、高校卒業後すぐに就職というイメージが薄れてきているのかもしれない。

川邊委員：アジアインバウンド科の最終的な就職先などはどういったもの、どういった所をイメージしているのか？

佐野副校長：既存の英語コミュニケーション科の中国語版だと考えている。広く語学を用いた仕事に就ければという漠然とした学生が、2年目の台湾留学を通じて、具体的な将来像を描いてもらえれば。学校としては旅行業界で活躍したいという学生を多く輩出したいという思いはある。

川邊委員：旅行業界としては、アジアからのインバウンドを専攻する学生は有難いので、期待している。高卒求人は全国で若干名採用しているものの、ビジネスマナーや高校でのカリキュラムなどから、本人の描く理想と現実のギャップ

が大きいのが現状。

廣岡委員：アジアインバウンドというネーミングは誤解を招く恐れがあるのでは？

佐野副校長：立ち上げの中心として動いている教員の強いこだわりもある。

佐野委員：テーマパーク業界でも海外からのお客様は増えている。テーマパーク科の学生で留学する学生は例年どれぐらいいるのか？

北市課長：毎年5名前後。TOEICでも優秀な成績を残し帰国する。

佐野委員：今後、中国語のニーズは高まる一方だと考えられるので、業界的にも中国語話者は大歓迎。会社としては高卒採用を増やしていきたいという思いもある。

富永委員：鉄道業界、特に現業職は基本的に高卒採用がメイン。今年の採用人数の約半数が高卒。今後、関西以外にも採用の枠を広げていきたいという思いはある。

瀬戸委員：高卒採用は実施していない。全体の採用状況を見ると、客室乗務員は根強い人気がある一方、空港周りや予約センターの採用は苦戦している。

広末委員：今年、多数の高卒者を採用した。これは全体の採用数の約3分の1。外国人も採用したいが、ビザの関係で現在は実現できていない。

高田委員：高卒採用の実績は設立以来無い。業界的に優秀でも若過ぎると、お客様から敬遠される傾向にある。

■次回の委員会について

2017年2月6日（月）開催予定

委員に面接指導を依頼

以上